

第４回
東京外環地下水検討委員会
主な意見

１．地下水流動保全工法について

- 東名ＪＣＴの地下水流動保全工法の位置、配置間隔は、必要通水量を確保するとともに、集水・涵養井戸周辺に目詰まりが生じないように設計されており、自然地下水位からの地下水位変動量が±０．１ｍ未満となるような性能を満足していることから概ね妥当である。
- 地下水流動保全工法の位置、配置間隔については、前回の意見と同様に、地下水流動保全工法の確実性をより高めるために現地状況に応じて対応していくことが望ましい。
- 東名ＪＣＴの新たに設置する工区内のモニタリング孔の配置計画は概ね妥当であり、詳細な設置位置については現地状況に応じて対応していくことでよいと考える。
- 東名ＪＣＴのモニタリングにおける期間や管理方法については、前回の意見を踏まえて実施していくことでよいと考える。